

2003 年度 委員会活動成果報告

(H16年 2月23日作成)

委員会名	季節変動と水の資源性利用WG	主 査 名：高橋 達
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会(水環境小委員会)	委員長名：鉾井修一
設 置 期 間	平成15年 4月 ~ 平成17年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	季節変動に伴って変化する水の資源性を多段階に活用する“暮らし”(住まい方・建築技術の総合)について、都市や農村における実態調査やエクセルギー概念による研究、実践事例を整理し、現代社会に適用するための方法を明らかにする。初年度に事例を収集し次年度に報告書作成・公開勉強会を開催する。	
委員構成 (委員名(所属))	高橋達(福岡工業大学) 黒岩哲彦(アルキテクタ) 星名康弘(グリーンシグマ) 伊藤親臣(雪だるま財団) 清水徹(アトリエ縁) 早坂(ロリーポップ) 長谷川秀夫(生薬発酵研究所)	
設置WG (WG名:目的)	季節変動と水の資源性利用WG:季節変動に伴って変化する水の資源性を多段階に活用する暮らしについて、都市や農村における実態調査やエクセルギー概念による理論的研究、実践事例を整理し、現代社会に適用するための方法を明らかにする。	
2003年度予算	45,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	平成15年7月3日・4名、8月8日・4名、平成16年1月31日・3名 主査も含めて地方在住の委員が多く日程調整が難しかったため、開催会議数・参加人数とも少なくなってしまった。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p style="text-align: center;">水の多段階活用の方法を整理するために必要な以下の事例を収集した。</p> <p style="text-align: center;">横井戸・タネンボを用いて水(養分・水質)を多段階に活用する山間集落の研究事例、 伝統的雪室の調査事例(冷蔵冷源としての雪活用)、 現代の雪室・雪冷房の実践事例(冷源としての雪活用)、 水の蒸発作用を活用した住宅の採冷(蒸発冷却による液体水の活用)、 エクセルギーによる液体水・水蒸気と溶液の拡散能力(冷やす能力・養分を溶かす能力)の定式化の研究事例、 雨水・石炭・竹炭の複合による低環境負荷型選択の実践・研究</p> <p>以上の成果の学術的・社会的価値は、これまで一般的には行われてこなかった水の多段階活用について研究・技術開発を行なう価値があることを示すための基礎資料が整理されたことにある。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>当初の計画で予定していたものの8割ぐらいは報告事例を収集できた。ただし、建築計画論にかかわる部分(黒岩委員担当) 水質に関する水の多段階活用の事例について所在は把握しているが、WG活動のコンテンツとしてまだ吟味していない。水質に関する水の多段階活用の事例に関する内容の吟味を行えば、次年度に予定している報告書の作成・公開勉強会の開催は十分可能である。</p>
その他評価すべき事項	